

市長、「市民の理解をいただいている」と強弁

「(仮称)厚生産業会館は改めて市民の意思確認を」との質問に

私の一般質問は10日でした。今回の質問では(仮称)厚生産業会館問題、新たな介護保険制度関連問題、障がい者福祉の今後の方向性についてとりあげました。

最初にとりあげたのは(仮称)厚生産業会館問題です。

日本共産党議員団が今秋取り組んだ市民アンケートでは2413通の回答のうち、「いったん白紙に戻すべきだ」という回答が67.6%を占め、基本設計の線がいいですよというのが、わずか7.1%、基本構想時の規模程度にすべきだというのが17.7%でした。私は「これは市が取り組んだパブリックコメントとは正反対の結果だ。改めて市民の意思を確認すべきだと思うが、市長の見解をききたい」と市長に迫りました。これに対して村山市長は、「こ



の間、早期の建設を望まれる多くの声をお寄せいただく中で、利用を待望されている皆さんの期待に応えるべく鋭意、事業内容の整理を進めてきた」(仮称)厚生産業会館は当市にとって真に必要な施設であり、将来に向けた『価値ある投資』として市民の皆さんにも十分ご理解をいただいているものと考えている」とのべ、改めて市民の意思を確認する考えのないことを明らかにしました。

特養ホーム整備、もっと積極的に対応を

本年6月、医療・介護総合法が通ったことにより、介護保険は新たな歩みを始めました。これまで指摘してきましたように、「要支援1、2」の人を「介護予防給付」対象から外し、特別養護老人ホームの入所者は原則として「要介護3」以上に限定する、一定の所得がある人は介護保険サービスの利用料を2割負担にするなどの改善がされました。私からは、「第6期介護保険事業計画案では、(整備計画策定にあたって)特別養護老人ホームの入所対象者を様々な条件をつけて狭く捉えている。もっと積極的に対応できないか」「第6期介護保

険料基準額は、11月段階では第5期より66円高

い月額6591円という算定状況である。国へ国庫負担の大幅引き上げを求めるとともに、一般会計からの繰り入れなどを検討し、保険料を抑制すべきではないか」と質問しました。

村山市長は、このうち特養ホーム整備計画については「次期計画期間内における各施設の整備数を決定するため、本年1月1日現在の特別養護老人ホームへの入所申込者1293人を対象とした入所の緊急性等を把握する実態調査を行った。(中略)ご家族と介護支援専門員等の双方ともに入所の緊急性が高く、1年以内に入所が必要であると判断した240人を入所緊急型とし、施設整備に係る基礎数値とした」とのべるにとどまりました。また全国でトップクラスの介護保険料については、「介護予防事業の取組をさらに強化していくとともに、引き続き、国の負担の増額を強く要望するなど、介護保険料の抑制に意を用いてまいりたい」と答えました。



【ヤブコウジ】サクラソウ科の常緑小低木。長年にわたり草だと思っていたが、れっきとした木です。漢字で「藪柑子」と書きます。赤い実は白い雪のなかであって美しい。写真は吉川区町田にて撮影したものです。

新年度、基幹型に移行へ

障がい者施策については、今後の方向性にもかかわることとして、

「相談支援センターの基幹型への移行はいつから、どのように具体化していくのか」「不足が指摘されているグループホームの不足の早期解消策をききたい」と質問しました。

これにたいして村山市長は、「受託事業所を一元化し、運営体制の強化を図った上で、増加傾向にある困難事案への対応や関係機関との連絡調整、指導・助言といった、いわゆるスーパーバイズ機能を有する『基幹相談支援センター』に移行することが必要であると判断し、方向性をまとめた。現在、相談支援センターの運営体制の一元化に向けた調整を進めているところであり、新年度からの新たな運営体制への移行を見据えながら、地域における相談支援の中心的役割を担う『基幹相談支援センター』への展開を図ってまいりたい」「平成27年度にグループホームの整備が一定程度が進み、現時点で把握している待機者23人の対応はできるものと考えている」と答えました。

※「しんぶん赤旗」日曜版は12月28日付けと新年1月4日付けは合併号です。



No.1689 2014.12.28
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628 吉川有線 4867
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hosei.jp/>

ブログ「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第三十七回

父の木工作品

金曜日でした。地域協議会の忘年会があるというので、妻に送ってもらい、指定されていた時間よりも一五分ほど早く会場の割烹に着きました。たぶん会議はまだ終わっていないので、宴会が行われる一番大きな部屋にはまだ誰一人来ていませんでした。

手元には新聞も本もありませんでしたので、カラオケの道具や床の間に飾ってあった置物をゆっくりと見て過ごしました。そのなかで私の目を引いたのは、木の根っこを使い、制作した木工作品です。武士のような姿の人間が何かの動物の背中に乗り、手綱を引いて、敵を追いかけているといった感じの置物でした。置物の台は木の根元部分を輪切りにしたもので、その磨き方が何となく父の作品に似ているなと思いました。

しばらくしてから女将さんが来られ、「おばあちゃん、元気でいなかったですか」と声をかけてくださったので、少しの間、家族の話をしました。じつはこの割烹のおばあちゃんも母と同じ日曜日に区内のデイサービスに通っておられるということをお母から聞いていたのです。双方の母親の物忘れの程度やこの割烹のおばあちゃんも若かりし頃、山間部まで出かけて料理をされていたことなどで話はずみませんでした。

話の途中で、「床の間にある木の置物はひよつとすると私の家のおやじが作ったものではないでしょうか」とさりげなく訊くと、「そうです」という言葉が返ってきました。心の中ではそうではないかと期待していたのですが、間違いなく父の作品であることを知って一気に胸が熱くなりました。頬をゆっくりと下る涙を私は女将さんに気付かれないようにそつと指先で止めました。

私の父は一時期、こうした木の根などを使って何かを制作し、楽しんでいたことがありました。私の記憶では、八王子市の小澤酒造場という名の造り酒屋に出稼ぎに行き、「桑の都」という銘柄のお酒を造っていた時期だったと思います。出稼ぎから戻ってくる時、父は、関東方面で買い求めたいろんな形、大ききの鑿(のみ)、カンナ、磨きの道具などをたくさん持ってきました。そしてその年の春から、川で拾ってきた木の根などを活用して作品づくりを本格的に始めたのです。

制作の場は牛舎とつながっている車庫です。父は雨で外作業ができない時だけ、晴れていた時であっても時間を見つけては集めてきた木の板や根などを削ったり、磨いたりしていました。ある程度できると、台づくりをし、最後の仕上げ、塗りの作業をやりました。材料集めから塗りまで全て自分の手でやっていたのです。

割烹にある作品をじつと眺めていたとき、ふと思いついたのは、父が制作した置物の台づくりの場面でした。台の平らの部分と他の部分の境目を丸く磨くのが父の作品の特徴のひとつだったのですが、じつは、父が制作しているところを見たとき、私は、境目は丸くしないで、境目のラインがはっきりしていた方がいいと思っていたのです。それを言っても、頑固な父は私の言うことを聞いてはくれまいと思っていましたので、何も言わないでそのままになってしまったのですが……。

出来上がった木工作品はわが家の玄関や廊下などにいまも置かれています。作品の一部は親戚の家や付き合いのあった商店などにも置かせてもらったようです。ここ一年ほどの間にも、大潟区に住む従兄妹の家や吉川区内の伯母の家などで見かけました。でも、まさか忘年会の会場で父の作品と出合うことになるとは……。私は父と再会したようならうれしさを覚えました。

空き家対策条例案まとまる

市議会の政策形成会議は15日、「空き家等の適正管理及び活用促進に関する条例(案)」をまとめ、議長に答申しました。

条例案は老朽危険空き家対策や空き家の活用などを中心に29条にまと

められています。当初、議会で盛り込むことにしていた空き地対策については、空き地の管理不全状態を合理的な基準で示すことがむずかしいことなどを理由に行政側が難色を示し、残念ながら、今回は見送りました。写真は議長へ答申書を渡しているところです。

「空き家等の適正管理及び活用促進に関する条例(案)」はパブリックコメントにかけられ、3月議会に議員提案される予定となっています。

すでに2センチを越えたところも

今冬は降り始めからの積雪が多くなっています。

私は18日は安塚区須川と大島区菖蒲、21日は牧区棚広新田(写真)を訪れてきました。い



れも2センチを越える積雪を記録した地域です。一人暮らしの高齢の女性がもくもくと除雪作業をされている姿も見えてきました。道路除雪は良好でした。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	12月17日(水)	12月24日(水)
上越南消防署	0.043	0.030
上越北消防署	0.057	0.047
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.047	0.043
頸南消防署	0.050	0.047
東頸消防署	0.060	0.053
高士分遣所	0.057	0.037
名立分遣所	0.056	0.050

春よ来い

第三十七回

父の木工作品

金曜日でした。地域協議会の忘年会があるというので、妻に送ってもらい、指定されていた時間よりも一五分ほど早く会場の割烹に着きました。たぶん会議がまだ終わっていないかったのでしょうか、宴会が行われる一番大きな部屋にはまだ誰一人来ていませんでした。

手元には新聞も本もありませんでしたので、カラオケの道具や床の間に飾ってあった置物をゆっくりと見て過ごしました。そのなかで私の目を引いたのは、木の根っこを使い、制作した木工作品です。武士のような姿の人間が何かの動物の背中に乗り、手綱を引いて、敵を追いかけているといった感じの置物でした。置物の台は木の根元部分を輪切りにしたもので、その磨き方が何となく父の作品に似ているなと思いました。

しばらくしてから女将さんが来られ、「おばあちゃん、元気でいなかったですか」と声をかけてくださったので、少しの間、家族の話をしました。じつはこの割烹のおばあちゃんも母と同じ日曜日に区内のデイサービスに通っておられるということをお母から聞いていたのです。双方の母親の物忘れの程度やこの割烹のおばあちゃんが若かりし頃、山間部まで出かけて料理をされていたことなどで話はずみませんでした。

話の途中で、「床の間にある木の置物はひよつとすると私の家のおやじが作ったものではないでしょうか」とさりげなく訊くと、「そうです」という言葉が返ってきました。心の中ではそうではないかと期待していたのですが、間違いなく父の作品であることを知って一気に胸が熱くなりました。頬をゆっくりと下る涙を私は女将さんに気付かれないようにそつと指先で止めました。

私の父は一時期、こうした木の根などを使って何かを制作し、楽しんでいたことがありました。私の記憶では、八王子市の小澤酒造場という名の造り酒屋に出稼ぎに行き、「桑の都」という銘柄のお酒を造っていた時期だったと思います。出稼ぎから戻ってくる時、父は、関東方面で買い求めたいろんな形、大ききの鑿(のみ)、カンナ、磨きの道具などをたくさん持ってきました。そしてその年の春から、川で拾ってきた木の根などを活用して作品づくりを本格的に始めたのです。

制作の場は牛舎とつながっている車庫です。父は雨で外作業ができない時だけ、晴れていた時であっても時間を見つけては集めてきた木の板や根などを削ったり、磨いたりしていました。ある程度できると、台づくりをし、最後の仕上げ、塗りの作業をやりました。材料集めから塗りまで全て自分の手でやっていたのです。

割烹にある作品をじつと眺めていたとき、ふと思いついたのは、父が制作した置物の台づくりの場面でした。台の平らの部分と他の部分の境目を丸く磨くのが父の作品の特徴のひとつだったのですが、じつは、父が制作しているところを見たとき、私は、境目は丸くしないで、境目のラインがはっきりしていた方がいいと思っていたのです。それを言っても、頑固な父は私の言うことを聞いてはくれまいと思っていましたので、何も言わないでそのままになってしまったのですが……。

出来上がった木工作品はわが家の玄関や廊下などにいまも置かれています。作品の一部は親戚の家や付き合いのあった商店などにも置かせてもらったようです。ここ一年ほどの間にも、大潟区に住む従兄妹の家や吉川区内の伯母の家などで見かけました。でも、まさか忘年会の会場で父の作品と出合うことになるとは……。私は父と再会したようならうれしさを覚えました。

空き家対策条例案まとまる

市議会の政策形成会議は15日、「空き家等の適正管理及び活用促進に関する条例(案)」をまとめ、議長に答申しました。

条例案は老朽危険空き家対策や空き家の活用などを中心に29条にまと

められています。当初、議会で盛り込むことにしていた空き地対策については、空き地の管理不全状態を合理的な基準で示すことがむずかしいことなどを理由に行政側が難色を示し、残念ながら、今回は見送りました。写真は議長へ答申書を渡しているところです。

「空き家等の適正管理及び活用促進に関する条例(案)」はパブリックコメントにかけられ、3月議会に議員提案される予定となっています。

五智6丁目で幅30㍎、長さ100㍎の地すべり

五智6丁目地内で24日発生した現場を党議員団で見てきました。幅約30㍎の土砂が約100㍎滑り落ち、市道五智居多ヶ浜シーサイドライン線をふさいで



います。滑り落ちて、横に流れているのは板倉区国川の地すべりと似ていました。早急な原因究明と対策を求めていきます。写真は現地調査中の私です。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	12月17日(水)	12月24日(水)
上越南消防署	0.043	0.030
上越北消防署	0.057	0.047
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.047	0.043
頸南消防署	0.050	0.047
東頸消防署	0.060	0.053
高士分遣所	0.057	0.037
名立分遣所	0.056	0.050